

基調講演

「地域の文化資源を今と未来に活かす」

講師：信州大学地域戦略センター長
前信州大学附属図書館長
笹本正治



(講演中の笹本講師)

1 はじめに

今の日本は大きな曲がり角にあります。過疎化が進む地方、多発する災害、孤独死のような課題が日本全国にある中で、国の地方創生のかげ声があるが実態はどうか。この危機的な状況を救うのは若者、馬鹿者、よそ者です。馬鹿者は損得ぬきにして地域のために、他人のために一生懸命やれる人、よそ者はいいところ悪いところを客観的に言える人です。

地域の魅力を考える素材として文化財があります。これは人をつくる学びの材料です。文化財を財として使えているか。文化財は過去の人や自然の営みが凝縮されています。経済を超えられるのは文化しかない。過去の人々が地域づくりにかけた情熱・努力を知り、歴史を踏まえてのまちづくりが必要です。それが地域の文化資源の概念です。

私たちの時代も歴史のリンクの一つであり、過去と未来にどうやって責任を負うか。昭和時代は繁栄したが何を残したでしょうか。私たちは歴史を伝え文化をつくる義務を持っているが本当にやってきているか。地域の文化資源として、文化遺産、文化財は保存、保護に主眼が置かれがちだが、人々の生存の拠りどころとして利用できることが前提となっています。文化を総合的な文

脈の中でとらえて新たな価値を創造しなければなりません。

何が今足りないかを確認し未来を創るのが学問であり、文化財はその素材の一つです。より良い未来は現状の認識からはじまります。私たちは現状認識を本当にできているか。未来はどうあるべきかの理想論に燃えているか。なぜ過疎化するのかをもう一回考えないといけません。

日本人は反省を忘れます。地名をみると災害があった場所が分かる、もしくは伝説をみると次の段階で何をしなければいけないかがわかります。古い地名を消していいいのか。

地域づくりは足元を見る必要があります。歴史を踏まえた品格のあるまちづくりがされているか。

地域がどれだけ素晴らしいかを子供たちに自信を持って語れるか。自分や祖先を誇らずして子供や子孫は親や祖先を誇れません。自分が住む地域に誇りを持ってなくて子孫も居ついてはくれません。

人間にとっての豊かさとは何か。私たちは物を持つようになったが、この近代の物資の豊かさは本当に人間を豊かにしたか。地域で住んでいる人はおそらく孤独死はありません。人間は本来群れるもの、そこから文化が生み出され維持されてきました。災害に対応するのも人とのつながりが必要で、人とのつながりを希薄にすることは人間として生きることに背きます。

2 図書館の役割

人をつなぐのが図書館で、地域振興・地域づくりとどう関わるかが重要です。図書館は、人間の知的生産物である記録された知識や情報を収集、組織、保存し、人々の要求に応じて提供することを目的とする社会的機関だが、提供するだけではいけません。

大学図書館は大学の強みである研究・教育を地域の人のために、研究者は独りよがりではなく市民とともにある学問を本当に行っているか。グローバル化とは自分の文化、よその文化を認識し未来に向かってどう発信できるかです。地域創生は地域文化の認識なしでは成立しません。

図書館は文化資源の収集発信をしなくてはなりません。大学は地域貢献の研究推進をしなければなりません。今後ますます高度化する電子情報化に対し新たな手法の模索や対応が必要となるが、皆さんは専門家であり、その意識がなくては図書館の職員は務まりません。

予算の縮小が進んでいる中で効果的な資金活用が求められています。地域が繁栄するために大学図書館と公共図書館がより密接に協力した方がもっと新しいことができます。図書館が教育の場になっているかもう一回考えなければなりません。

歴史はつくるもので過去にしがみつくるものではありません。図書館を通じて地元のことを知り、新たな知が創造されなければなりません。どんなすばらしいものも誰かが始めました。文化財も名もない人がつくりました。決して一人だけの力ではありません。学ばずに新たな創造はありません。新しいことを創るためには学ぶ必要があります。裏付けを持ったまちづくりが必要であり、図書館はその基礎をなしているはずです。

3 地域づくりと誇り

住んでいる地域を知っていますか。大事なふるさとを知らない人が多い。文化財への無理解があります。祭りは防災につながり、何かあったとき横につながるができます。

子供や孫に故郷に住んでもらいたいですか。子供に故郷をきちんと教えられますか。自分がよいと思わないで、子供たちにここに住めというのは矛盾です。

ふるさとに対する誇りがありますか。誇りはつくるものでもあります。誇りになるものを自ら認識する努力をしていますか。個人を越えたふるさとが誇りになります。

祭りは人々がつくった偉大な浪費ですが、浪費は無駄ではないから続いています。ふるさとを知る努力をどれだけしていますか。

転換期が新たな文化を創ります。新たな手段を活用しての地域づくりに図書館も関わっていなければいけません。

文化にはお金がかかることを認識しなければいけません。古い街並など認識すれば

財産になります。内側からの視点として、自分たちがいいと思うものは訴えよう。外側からの視点として、人が良いと思うものは教えてもらおう。案外地域の人はどうでも良い物だけを大事にし、大事なものを失ってしまいます。皆さんの発言が大事です。

文化にはお金がかかります。教育にお金は必要です。必ずしもお金で換算はできない投資以上のものがあるから資金をかけましょう。

図書館に資金を出してもらっていますか。地域づくりは人づくりであり、本当は豊かな人こそ文化の体現者です。人は過去の人々の営みの上に立てる。文化財は学んでこそ意味があります。過去を学ぶことによって私たちは誇りが持てます。多くの文化財を指定し、学び、未来を築きましょう。親が学ばなければ子供が学ぶわけではありません。

私たちがこのまちがいいと思うところからまちづくりは始まります。地域活性化の原動力は自分の元気な思いです。自分が元気でなかったら周りには元気になりません。

図書館は今まで何をしてきましたか。地域活性化のために、あるいは地域づくりのために何をしてきましたか。

これからが勝負です。単に図書館に来てもらえばいいという前に、うちの図書館はこれだけの用意をしているから来てください、図書館はこんなにおもしろいですよとどれだけ主張できますか。今社会は転換期を迎えようとしています。図書館の職員一人一人がメッセンジャーです。



(講演の様子)